（別紙4）　　平成　22　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2771602139		
法人名	有限会社　関西レヂデンス		
事業所名	グループホーム　ヴィラコティ岸部（1階フロア）		
所在地	大阪府吹田市岸部中4丁目12－2－100		
自己評価作成日	平成22年5月7日	評価結果市町村受理日	平成22年7月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2771602139&SCD=320

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ　ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2－1－8　親和ビル4階
訪問調査日	平成22年6月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ハード面の充実は、お金を掛ければ解決します。しかし私たちは、人が人をケアする仕事をしています。入居者に学び仲間や家族、地域の全ての人に学べる素晴らしい環境にいます。職員がそれらのかかわりを大切に思い、常に優しい気持ちでいるそんなソフト面の充実に取り組んでいます。いつも笑い声の耐えないホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

管理者・職員間のコミュニケーションが良く、何時も笑顔で利用者と接し馴染みの関係を大切にしている。開設7年目を迎える事業所は清潔さが保たれていると共に各ユニットに5つのトイレを設置している等、居心地の良い住環境となっている。美容・いきいき（体操）・絵画等の各クラブが定期的に開催され、利用者にとって“楽しみ・幸せ・やすらぎ”となっている。早い段階より重度化に於ける指針書を利用者と交わしていると共に実際に重度化になった利用者に対し、別途家族との確認書を取っている。この書類に基づいてこの1年間に2人の利用者が関係者（かかりつけ医・看護師・家族）の協力を得ながら職員の心のこもった支援で看取られた。この経験でむしろ職員の絆が図られた。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業計画に理念を掲げ推進会議で地域の方、家族にアピールし、職員は毎日理念を唱和し外部との交流を深める支援をしている	和・幸・楽・志（やすらぎ、幸せ、楽しみ、こころざし）という事業所独自の理念を掲げ、職員の共有と日々の実践に地域住民の協力を得ながら取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者も自治会員となり地域活動に参加している	利用者１人ひとりが自治会に加入し、夏祭り・高齢者向け炊き出し・敬老会・運動会等地域行事に積極的に参加している。また草取り等の地域奉仕活動に参加し地域の方々との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議を中心に地域の方の相談に乗っている学生の福祉体験を利用して認知症の理解を深めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当、ホームを理解していただきサービスの向上に努めている	自治会代表・福祉委員・民生委員・介護相談員・社会福祉協議会・利用者・家族・運営者・管理者・職員が参加し、双方向の議論が2ヵ月に1回開催されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者とは、会議意外でも交流し地域の行事など市町村との交流を増やしサービスの向上に努めている	市職員とは気軽に話し合いが出来る環境を作っていると共に定期的に訪問している。	今回の外部評価の後、目標達成計画書を市に提出する機会を捉え、直面する課題解決等を話し合うと共に市担当側の協同関係を地道に築くことを期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	必要な研修に参加し話し合いの場を設けている。玄関の施錠等は、入居者の安全を思えばこそ最低限の施錠に収めている。家族、入居者の同意も取っている	原則として身体拘束を行っていない。生命保護のため、やむを得ない時は一時的に医師と相談しながら家族の了解を得ることとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	必要な研修に参加し話し合いの場を設けている。職員間で話し合い地域の会議の課題になっている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な研修に参加し、グループホームではあまり身近に感じられない面もあるので職員全体に理解してもらえるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時じっくり時間を取り説明し認印をもらっている。後日気になる事、疑問がないか確認するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族の一言ひとことを聞き入れ、不満に思っていることがないか日々の会話の中で行っている。苦情係りが誰か明確にし運営の反映に勤めている	家族の来訪時には出来るだけ意見をきくようにしている。職員は利用者･家族に意見や要望があることと認識し、些細な要望でも苦情処理簿に記録し、職員会議で対応を話し合っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の提案や意見は、運営者に行きにくいが管理者に思いを上げてくれるので仲立ちして反映に導いている。	毎月開催する職員会議で職員は管理者に気軽に意見を言える環境になっている。管理者は意見の中味によって運営者に報告と相談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	意見交換は欠かさないが、給与水準には不満を持ったスタッフは多い。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受けた職員は、会議で内容を発表し伝えることにより力をつけている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互訪問の活動でサービスの向上の取り組みをしている。他、地域の同業者の交流、意見交換をしている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居にいたるまで個人面談を行っている。話し合う機会を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談のとき、本人はもとより家族の話を聴き家族のケアも考えている。また相談に乗っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	体験入居を勧めている。家族にもかかわりを持ってもらいともに考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人の人として接し尊敬し慈しんで接している。本人のできることを活かし支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が訪問しやすいよう敷居を低くすることに勤め、本人がその人らしく人生をまっとうできるよう家族の協力を得て支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のこれまでの馴染みを大切にすることはもちろんのこと、外へ出て新たな馴染みを作る支援もしている。	利用者の友人や知人等の人間関係を把握するように努めている。特に以前からいきつけの美容院には継続して行き来し、楽しみ支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や生活パターンを把握し気の合う者の観察をしている。また気の合わない者同士を放すのではなく係わりながら孤立しないようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状などでその後をお聞きしている。その後をっ連絡してくれる家族様も多い。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様お一人ずつに、担当が1から2人付いており計画作成者と連携しご本人の希望を把握するよう努めている。	日々、入浴・食事どき等のさりげない会話の中に1人ひとりの思いや本音を聞くように努めたり、家族の情報も大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントツールには、センター方式を利用しており、これまでの暮らしを知るために入居前に家族にも聞き取りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りに参加し担当職員とこまめにコミュニケーションを取り把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に一度モニタリングを行っているが、その前に担当職員から意見を聞きそれをカンファレンスに活かして計画作成している。	毎月新鮮な目で利用者ごとの状況把握をし、設定期間ごとに計画の見直しを図っている。家族からの要望も大切にし、職員の知りえた事実も参考にしながらチームで計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスを行う前に、3ヶ月の記録の見直し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスにはとらわれずご本人の状況に則してカンファレンスを行い柔軟な支援を心がけている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア活動の利用。定期的な（饅頭屋へ）買い物。地域活動の参加		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に一度検診に来ていただいている。今のところ家族の了解を得て一人のかかりつけ医に来てもらっているが希望次第でかかりつけ医に選択は自由である。	以前からのかかりつけ医との支援も出来るが、現状は家族の同意で協力医療機関から2週間に1回の往診を受けている。24時間訪問看護ステーションの看護師や認知症専門医との連携が構築されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と24時間連携を図り入居者にとって最良であるよう相談できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院後のケアについて家族とともに職員もかかわり病院関係者と話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階でお話しても実感は無いようだが、終末期を迎えるにあたりケースによりそのつど方針を定めている。	24時間医師・看護師の協力を得て、終末期にも対応している。早い段階での重度化対応指針を交わしていると共に実際に終末期に近づいた時に家族との確認書を交わし、職員の心のこもった支援を得ながら看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修をうけている。リスクマネジメント委員をもうけ事故対応について指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域避難訓練の参加と昼夜問わずの避難訓練の実施	消防署の協力を得て消火器の使い方や利用者の夜間を想定した避難訓練を年2回実行している。自治会の地域避難訓練に参加し、近隣との防災上の関係作りを行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや尊厳について十分に配慮している	職員は尊厳を大切にして笑顔と優しさをモットーに利用者と接している。言葉掛けは事業所の永遠のテーマとして職員会議で注意を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを取りづらくなった入居者にも十分、説明を行い自己決定に導いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースに合わせた生活の支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望で外出し美容院に行ったり、訪問の理美容や化粧療法の利用をしていただいている。毎日化粧しておられる入居者もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	半調理した食材を業者から取っているので無理なく盛り付け、片付けの手伝いをしてもらっている。食べたい物のリクエストにはおやつ作りや家族の協力で外食支援をしている。	盛り付けや後片付け等出来る範囲で利用者は手伝い、職員と一緒に楽しく食事している。カロリー面を考慮した業者の半調理した食材を使っている。定期的に利用者と一緒になって菓子作りを行っている。	利用者の希望を全て聞くことは無理であるが、たまに食材を買出しに行き、要望に添った料理を皆で手づくりすることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの確保。水分は取ってもらいやすいように個人の好みを考え支援している。また体重の増減のチエックをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日の口腔ケアと1週間に一度の訪問歯科の指導を受けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立に向けた支援をしながら、本人が恥をかかないで済むよう、また良眠できるように考えながらオムツの使用をしている（疾病によるもの）	夜は睡眠がとれるようにオムツを使用しているが、出来るだけ利用者が自立して排泄するように支援している。職員は排泄パターンを共有し、さりげない誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘はできるだけ、下剤の使用をしないで済むよう個人に合わせた支援をしている。やむ終えない場合は医療機関と連携をはかり対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	２４時間入浴の対応はできる。拒否のある方も安心して入浴できる環境を整え入浴していただいている。	少なくとも週３回以上入浴するように支援している。希望者にはいつでも入浴出来る柔軟な対応を実施している。職員は無理強いをすることなく、ゆっくりとくつろいだ気持ちになれるように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間、起床時間は定めていない。個人のペースを見ている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関して、薬整理、担当職員、配薬、配役後の確認と、全員の職員が係わるようにし薬の認識に勤めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花の水遣り、新聞の購読、お酒、タバコ、日記や計算　それぞれ役割や楽しみを持って折られる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族に協力してもらう事が多い。戸外に出る支援をしている。	個別に利用者の外出希望を察知したらすぐ近隣への散歩をするよう対応している。買い物や外食、花見や紅葉狩りの特別な外出をしたり、また家族の協力で外出することを大切にしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が金銭を持つことに責任は負っていないが持つことは普通である。その他預かり金を儲け管理した上で自由に使ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	思いを汲み取りそれぞれの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな窓で光を取り入れ明るさはカーテンで調節。居間や玄関に季節を感じる装飾し、また開放的な空間であるよう配慮している。	ゆったりと過ごせる広い居間や食堂がある。ところどころに絵・写真や手づくりした作品が飾られ、普通に暮らせるような居心地の良い空間となっている。ユニットごとにトイレが5つもあると共に素敵なウッド調のバルコニーがある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ところ所に椅子を置き、気軽に休んでもらえるようにしている。間仕切りはリスクもあるので椅子の向きを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や物を置いている。ご本人の作品等、飾って「自分の居場所」を作っている。	使いなれた家具や馴染みの物を置き、思い出の写真や手作りした作品が飾られている。分かり易い名札を掲げ、落ちついて暮らせるようにプライバシーを大切にした居室作りに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけ複雑化せづ、乱雑にはなるが、どこに何が置いてあるのか入居者にも分かる様にしている。		